

大きく変わる働き方

「より豊かに働く」をデザインする



 KUROGANE

新たな「ハイブリッド」という働き方

不動産戦略の見直し

世界中で急遽導入された在宅勤務やテレワークは、働く場所を組み合わせた「ハイブリッド」という働き方へのシフトを加速させています。企業が企業風土や従業員に適した方策を考えるにつれ、完全在宅勤務という選択肢はさらに複数の選択肢をもったより柔軟な働き方に移行する傾向が高くなっています。

企業は ハイブリッドな働き方 を模索している

企業のほぼ4分の1は、引き続きオフィス勤務と在宅勤務、または第3の場所を組み合わせるというハイブリッドな働き方を採用する企業が増えています。

現在



23%

オフィス勤務

特記：割合はグローバルの平均値



72%

ハイブリッド型勤務



5%

在宅勤務



企業のほぼ25%は引き続きオフィス勤務と在宅勤務を組み合わせるハイブリッドな働き方を採用する企業が増えています。

通勤がゼロが在宅勤務に最大のメリットだとすると、サテライトオフィスやコワーキングスペースも働く環境を分散させる選択肢です。



オフィス

72%

ハイブリッド型勤務

在宅勤務

サテライトオフィス

コワーキングスペース

コロナ禍のテレワークで改めて気が付いた点

従業員のオフィス勤務復帰は決して容易なことではありません。対人距離の確保、検温、スペースを仕切るなど徹底した安全対策を講じる一方で、**軽視されがちなのは人間同士が触れ合うことでの結束力や発想力**です。それを生み出す「場」とは、コロナ禍前の従来のオフィスではなく、**従業員がより豊かに働く安心・安全かつ競争力のある新たな「場」**になります。

POINT

①

安心・安全

ウイルス蔓延防止など安全対策が必要です。新たな基準、ワーカーそれぞれがどこで働くかを決定する鍵となります。

POINT

②

帰属意識

オフィス勤務復帰を望む最大の理由は、同僚との繋がり、仲間意識を感じ、自発的に組織やチームに貢献したいからです。

POINT

③

生産性

コロナ禍において価値観が変化し、ワーカーが望むこととは、効率的で実用的な環境が整っていることです。

POINT

④

快適さ

今、オフィスでは一日中働きながらさまざまな場所や姿勢で働くことができ、また静かな邪魔されない環境が求められています。

POINT

⑤

コントロール

オフィス勤務復帰の理由の上位に「静かで本物の仕事環境」が挙げられています。仕事をこなす場所として自宅は理想的ではありません。プライバシーを調節でき、ツールや家具を動かしながら仕事ができる柔軟性を望んでいます。

企業が注目すべき4つのマクロ的視点

現在

将来

安全性

健康+安全に関する基準の設定



室内空気質、密集度、衛生などの対策、ウイルス蔓延防止の見える化での心理的安心感など「働きたいと思える環境」に。

生産性

効率重視+単一目的のためのスペース



チームの協業コラボレーションと個人が集中できる集中ワークがバランスよくサポートされた多目的スペースが主流に。

一体感

オフィスの見た目でも有能な人材を獲得



単なる働く「場」から人のつながりや絆を築き、目的意識や帰属意識を育む「場」に。
(活力・信頼・再起力・インクルージョン)

柔軟性

変化を前提としない固定要素や家具



より柔軟な働き方を考慮した環境づくりにシフト。多目的利用やマルチな作業モード、移動可能な柔軟性のあるスペース環境に。

帰属意識

人間には、社会的つながりや集団に属したいという基本的欲求があります。これは人間の遺伝子に組み込まれた人間本来の欲求です。

オフィス勤務復帰を望む最大の理由は仲間との つながりや、目的意識です。

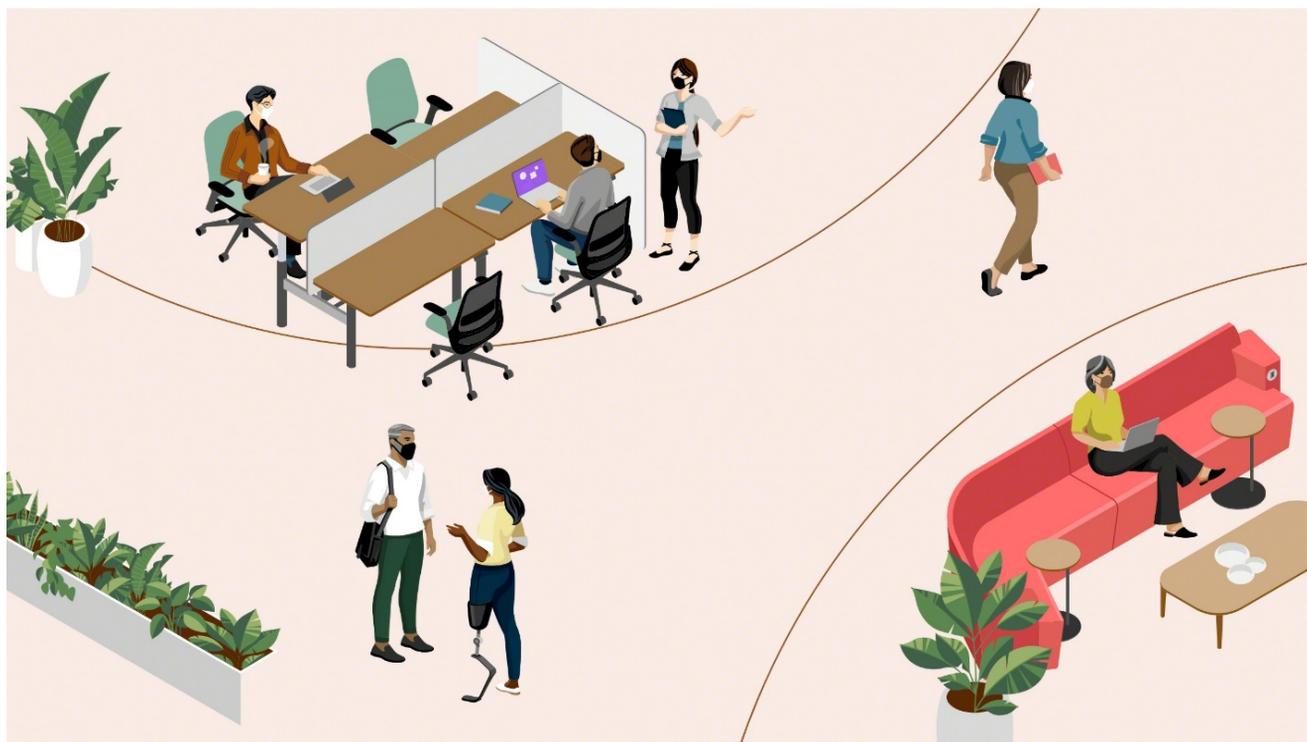
コミュニティ意識とはメンバーがお互いの存在に価値を感じ自分の貢献がほかの参加者にプラスに波及している状態のことで従業員のウェルビーイングに貢献するだけでなく、業績向上にもつながります。

組織やチームというコミュニケーションの一員であると感じられることが「生産性」や「やる気」「イノベーション」「会社への愛着心や忠誠心」の項目で評価が高い傾向にあります。

『コミュニティ意識を育む設計』

オフィス空間でその効果を生み出す考慮すべき重要な3項目

- ① 経営幹部といつでもつながるスペースがある
- ② 交流を促し、帰属意識構築に役立つスペースがある
- ③ アイデアの生成や創造的な問題解決につながる発想豊かで感性を刺激するスペースがある



生産性：効率的、実利的な集中ワーク

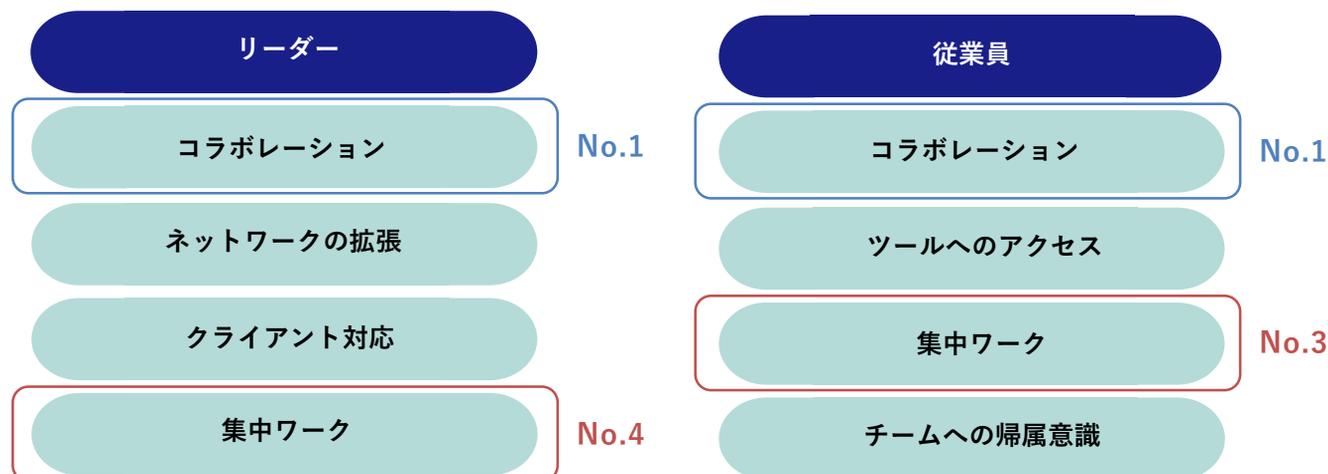
従業員は、自分の仕事が有意義である、価値があると感じたいと思っています。コロナ危機によって企業を取り巻くビジネス環境が劇的に変化する中、この**仕事の意義を実感したいという思いはますます増幅**しました。

仕事でのやり甲斐や喜び、目的を感じられること 効果重視の極めて実利的なこと

「個」と「チーム」の両ワークを交互に遂行する事が必須。
オフィスには異なるワークを即座に容易に切り替える両タイプのスペースが求められています。

コロナ禍以前は、**集中的に仕事をするためのプライバシーがないという不満**を抱いていた人も多くいました。現在、チーム活動やコラボレーションのためだけにオフィスに出勤すべきだという意見も多々あります。

調査データでは、**企業リーダーも従業員もコラボレーションのためではなく、ひとりで集中ワークのための場所としてオフィスを望む声が多い**ことが分かっています。



快適さ

コロナ禍前、オフィスに勤務する40%の人は、身体的な痛みや不快さから**一日中同じ姿勢を続けるのではなく、頻りに姿勢を変える環境を求めてました**。しかし、コロナ禍の長期に及ぶ在宅勤務で気がついたら長時間同じ姿勢で座りっぱなしであることが多く、しかも柔らかな**ソファやダイニングテーブル、ベッド**といった**仕事には不向きな場所ばかり**です。そのために体調不良やストレスに悩まされています。

一日中動きながら様々な場所や姿勢で働けること
邪魔されない静かな場所で仕事に没頭できること



これらを実践できるのはオフィスです。
そのオフィスで仕事する環境は三つの見地のサポートが必要です。



チョイス&コントロール

仕事を成し遂げ、与えられたタスクを達成するために、**どこでどう働くかを自分の裁量でコントロールすることを望む声も多くなっています。**

『静かでホンモノの仕事環境』

仕事をこなす場所として自宅は必ずしも理想的ではありません。

作業に合わせてプライバシー度を自ら調節できるツールや家具を動かしながら仕事できる『柔軟性』が必要です。

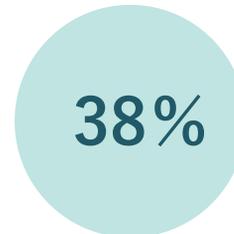
54%の従業員が家具を自分で動かし、レイアウトを再構成したいと望んでいますが、実際にそれができる環境にいるのはわずか38%だけです。

オフィスに望まれている割合



家具を自分で移動、再構成することを望む割合

実際のできる割合



それが可能な人の割合



身体面、認知面、情緒面の快適さに影響

デスクやテクノロジー、間仕切りを自由に動かせるように可動式にすることで、**集中が必要な際に即座にプライバシーを確保できる機動力のある環境を構築します。**またコロナ禍において、必要に応じて**対人距離を自在に瞬時に確保できる環境も整います。**

企業もようやく、**どこでどう働くかを選択したい**という従業員の欲求に耳を傾け始めています。世界中の企業リーダーの87%は、コロナ禍後には従業員がオフィス以外の在宅勤務や第3の場所で働ける選択肢ができる体制を整備することを検討しています。また、働く場所以外に、住環境にある多彩な空間や家具（ソファ、デスク、テーブル、屋外など）をオフィスにも配置してほしいという要望があることも明らかになっています。

より豊かに働ける環境・安全かつ競争力のある環境をご提案します。

テレワークの導入で見えてきた、安心安全の確保と、組織への帰属意識。そして集中スペースとコミュニケーションスペースの不足、それら両方に対応できる柔軟性の課題。**オフィスだからこそできる仕事のための5ワークモード**を用意することでコロナ禍の課題に答えるオフィスをご提案いたします。

5ワークモードとはワーカーのオフィス内での行動を5つに分類したものです。行動に合わせたスペースを用意することで、ワーカーのエンゲージメント（労働意欲）を高めます。フリーアドレス制を実現し、**個々に業務の内容に合わせて働く「場」を選びコントロールすることで、生産性をUPします。**

フリーアドレス

A 執務・集中

フリースペース

B コラボレーション

C 社交・交流

D 学び

E エネルギーチャージ

移動式の家具で
目的に合わせてスペースを構築

囲われた空間でリラックス

1人用シェルターで
快適な集中

情報・知識のインプット

デスクパネルで区切る

対面にならないように座る

デスクパネルで区切る

Face to Faceの
コミュニケーション

アイデアの共有・
効率の良いコラボレーション

複数でのWeb会議や
双方向のコラボレーション

フロアの核となる
オープンミーティング

エントランス付近での
ウェルカムミーティング

Web会議用の
1人用ブース

偶発的なアイデアを生む
リラックススペース

フリーアドレス

新オフィスでの期待出来る効果

- ①安全・安心を感じる（感染対策といった新たな基準）
- ②帰属意識が高まる（同僚とのつながり、仲間意識）
- ③生産的になる（オフィスは効率的で実利的な環境）

A

執務・集中エリア デスク

- ・使用人数が固定されないベンチ型。
- ・デスクとデスクの間にサイドテーブルをはさみ、必然的に距離を保つことができる。
- ・孤独感を感じる在宅勤務とは違い、同僚とつながり、仲間意識を感じ、自発的に組織やチームに貢献したいと思える。
- ・デスクハイトが選べる。
- ・オプションの組み合わせでプライバシーをコントロールできる。
- ・配線機能が優れていてツールに対応しやすい。
- ・デスクパネルを組み合わせで飛沫感染を予防。



執務・集中エリア チェア

- ・可動肘で継続的に腕をサポートする。
- ・背もたれが背骨や身体の動きに追従する。
- ・卓越した調節機能で、様々な身体の形状やサイズの人を的確にサポートする。
- ・標準タイプ、スツールタイプ、ヘッドレストやコートハンガーなど、幅広い嗜好やワークスタイルに対応可能。
- ・豊富な仕上げで、企業ブランドに合わせた演出が可能。

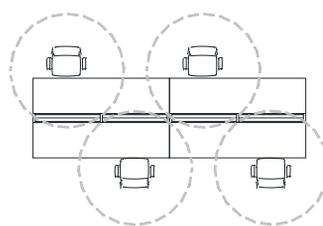


A 執務・集中エリアには3種類のデスクをご提案します。

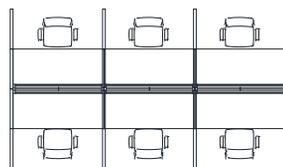
感染防止を考慮しながら 効率の良い業務

従来の島型配置であっても、使用人数が固定されないベンチ型にすることで対面を避けての着席や、オプションを組み合わせることで隣の人と適切な距離を保つことが可能です。高座位タイプでは立ち寄った人と瞬時にコミュニケーションをとることができます。

FU BENCH 【FUベンチ】

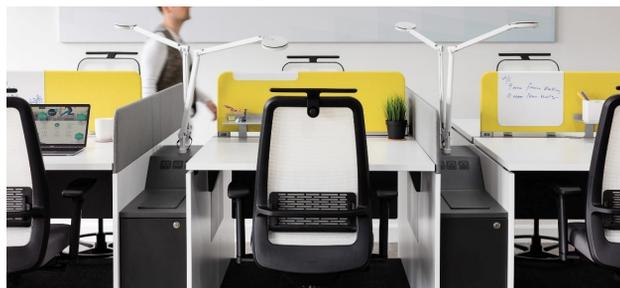


対面にならない様に座る



デスクパネルで仕切る

Navi TeamIsland 【ナビ チームアイランド】



ストレージレッグ

デスク高と高座位で利用できるストレージレッグは、私物アイテムのプライベートな収納スペースとして最適です。レッグ上部は便利な「バッグドロップ=鞆置き」としても機能するデスクを設置します。

WorkLet's 【ワークレッツ】



■ フロントスクリーン



■ 立体的な収納に
便利なポケット

豊富なオプション

様々なデスク用オプションが、一人一人の働きやすい環境をサポートします。

フリースペース

新オフィスでの期待出来る効果

- ③生産的になる（オフィスは効率的で実利的な環境）
- ④包括的な快適さ（一日中動けさまざまな場所や姿勢で働くことができる）
- ⑤コントロール性の向上（静かで本物の仕事環境）

B C D E

[B] コラボレーションエリア

- ・立位スタイルで短時間の軽い打ち合わせや、コラボレーションができる。
- ・執務エリア以外でのワークエリアとしても利用可能。
- ・アイデアの共有・効率のいいコラボレーションを行うことができる。

[C] 社交・交流エリア

- ・TV会議やWEBミーティングなどにも応用可能。
- ・オープンスペースで新しいアイデアの創出に繋がる。
- ・移動が簡単で柔軟性が高い。



[D] 学びエリア

- ・囲われた空間では周りを気にせず新たな情報や知識の吸収に集中できる。
- ・リラックスし、1人で快適な集中ができる。
- ・騒音をシャットアウトし、周囲を気にせずWeb会議に参加できる。

[E] エネルギーチャージエリア

- ・休憩や活力補給のための、リビングの様な落ち着いた空間。
- ・偶発的なアイデアが生まれるきっかけとなる。
- ・自由な動きを可能にし、快適に過ごせる。



B コラボレーションエリアには3種類のテーブルをご提案します。

気軽なコミュニケーションで アイデア出しを促進

立位スタイルは短時間の軽い打ち合わせや、コラボレーションに最適です。動線に配置されたハイテーブルでは、偶然出会った従業員同士のコラボレーションにより、新たなアイデアを生み出します。

また、リラックスした雰囲気のコラボレーションが意思疎通を促進します。

Navi TeamIsland 【ナビ チームアイランド】



エンドテーブルで瞬時に集う

会議室の代わりに執務エリア内に瞬時のコラボレーションが可能な「場」を創出し、チーム力をより強固なものにします。

Campfire BigTable

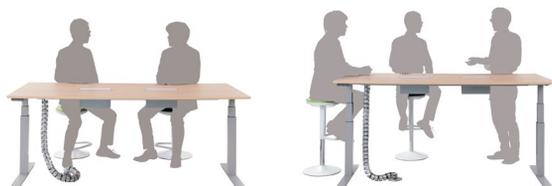
【キャンプファイヤー ビッグテーブル】



人が集い、仕事がこなせる

「座る」「立つ」の2種類の高さを用意。また照明、電源コンセントなどを取り付けられるセンターレールをチョイスでき、生産的に仕事をこなせるパーフェクトな「場」を創出します。

JUSFY 【ジャスフィ】



上下昇降デスクでオフィスのニーズにフレキシブル対応
オフィスデスクに働き方を合わせるのではなく、ワークスタイルにデスクを合わせることが可能です。個人のスペースやミーティング用など限定されていたオフィスデスクがもっと自由なコラボレーションにかわります。

C 社交・交流エリアには2種類のオープンスペース用コレクションをご提案します。

スペースを柔軟に調節し パフォーマンスを高める

仕事の内容に合わせて、スペースを構築・変更することで、アイデアの可視化や共有ができ、創造性を育てられます。

また、お互いをよく知るためのスペースを提供し、人間同士の関係が深まることで、斬新なアイデアが生まれ、チームとしての相乗効果と創造性を高めることができます。

Campfire Collection

【キャンプファイヤーコレクション】



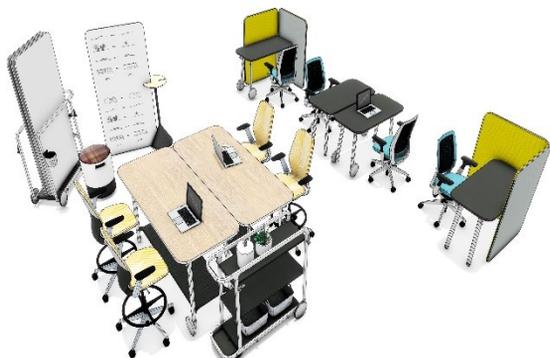
高い柔軟性

パーソナルでカジュアルな空間を創造でき、その高い柔軟性で魅力的なコラボレーションスペースにもなるラウンジコレクションです。

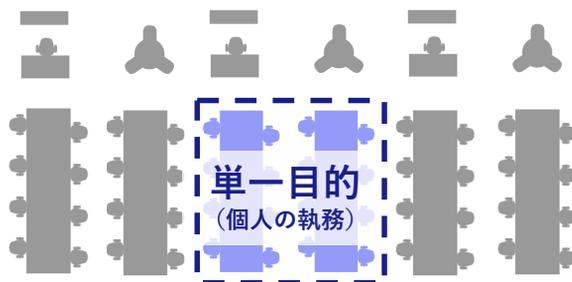
空間をスクリーンで区切る

メッシュ素材のスクリーンは、まわりとの視覚的なコンタクトもありながらプライバシーを確保できる便利な間仕切りです。

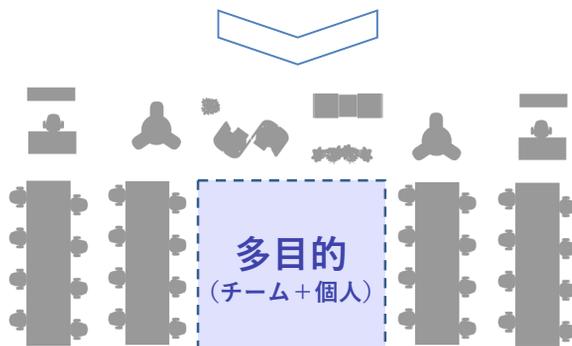
Flex Collection 【フレックスコレクション】



多目的スペースを組込む



(約6M×6M/16人収容)



(約6M×6M/8人収容)

D 学びエリアには3種類のブースをご提案します。

囲われた空間で 周りを気にせず快適な集中

集中できる静かなスペースで外部からの影響を防ぎ、個人の業務に没頭できるスペースが生産性の向上をもたらします。

ブースにすることでWebセミナーなどへの参加や、新たな情報や知識の吸収に集中できます。

Brody WorkLounge 【プロディワークラウンジ】



周囲を気にせずWebセミナーやZOOM会議などへの参加
ワーカーの最大の課題はいかに「集中力」を維持できるかということです。

視覚的刺激を最小限にするシェルター機能でプライバシーと包まれるような心理的安心感を提供します。
アंकレイブ(隠れ家のような集中スペース)に代わるスマートなソリューションとして、オフィスのデッドスペースを心地よい集中と休息の「場」へと変換します。

Work Cabin 【ワークキャビン】

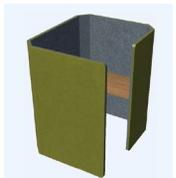
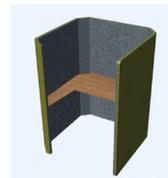
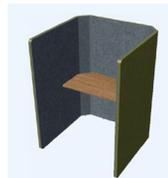


執務エリアから離れて集中

1人用ブースは、まわりから邪魔されずにアイデアをまとめたい、短時間で密度の高い作業をしたい時や、Webミーティングなどにおすすめです。

2人用ブースは、上司との個人ミーティングや報告業務、面談、高い集中度が必要な1対1のワークモードの場面に おすすめです。

Work Shell 【ワークシェル】



パネルで快適性を高める

横や背後からの覗き込みを防ぎ、集中して作業が行えます。また、無駄の少ない組み合わせによりスペースを効率的に利用できます。

E エネルギーチャージエリアにはラウンジコレクションと、2種類のチェアをご提案します。

自由な動きを可能にし 快適に過ごせる

リラックスできる空間は従来のフォーマルなオフィスに比べ、温かさと軽やかさを感じられ、発言しやすくアイデアを出しやすい雰囲気づくりに繋がり、ワーカーをリチャージさせ新たな気持ちで仕事に向き合えます。

B-Free Lounge 【ビーフリー ラウンジ】



ユーザーをサポートする様々な機能

バッグ・ドロップは個人の持ち物の収納と電源を確保でき、半透明のスクリーンは、プライバシーが保たれ、ワークスペースとの差別化が容易です。

また、組み合わせによって多彩なレイアウトを演出することができ、再構成も容易なモジュラー式家具です。スペースの核として人が集う「場」を創り出します。

Buoy 【ブイ】



人間の自由な動きを可能にする

レバー操作で14cm範囲の高さ調節が可能です。カーブしたベースラインが自由な動きを加速します。

また、約9kgの軽さを実現。ユーザーが行くところ、どこにでも簡単に持っていけるように設計デザインされています。

Lagunitas 【ラグニタス】



変化する姿勢に柔軟に対応

背もたれもクッションを適切に配置することで、リクレーニングしながらのリラックスモードから、前傾姿勢のワークモードまで、様々な姿勢を瞬時にサポートします。

Steelcase®
AUTHORIZED DEALER



KUROGANE

株式会社くろがね工作所
www.kurogane-kks.co.jp

お問い合わせは各営業所までお願いします。

東京 〒105-0014 東京都港区芝1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL. 03-5439-9111 / FAX. 03-5439-9115

札幌 〒060-0001 札幌市中央区北一条西7丁目3 (北一条第一生命ビルディング)
TEL. 011-281-2373 / FAX. 011-281-2367

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 (御幸ビル)
TEL. 052-253-6985 / FAX. 052-253-6986

大阪 〒550-0013 大阪市西区新町1丁目4-24 (大阪四ツ橋新町ビル)
TEL. 06-6538-1012 / FAX. 06-6538-7434

山口 〒753-0074 山口市中央5-15-20 (オデオンK)
TEL. 083-928-6115 / FAX. 083-928-6108

福岡 〒810-0012 福岡市中央区白金1丁目2-21 (Wビルディング渡辺通)
TEL. 092-523-1440 / FAX. 092-523-1442